

日本の原風景へとたどる

「紀伊山地の霊場と参詣道」は、世界遺産登録の名称の通り、修験道の「吉野・大峯」、真言密教の「高野山」、熊野信仰の「熊野三山」の3つの霊場とそこに至る参詣道が、人々の営みとそれを取り巻く自然環境によって互いに結び付き、千年以上に渡って受け継がれてきました。

起源も内容も異なる三霊場が参詣道でつながり、互いに影響しあいながら共存し、今なおいにしへの景観が良好な状態で残っていることが、世界的にも貴重であり、その歴史的・文化的重要性から世界遺産として登録されました。

また熊野には貴賤や性別、信不信を問わずに全ての人を受け入れてきたという特徴があり、熊野古道、とりわけ中辺路にはその寛容性や多様性を今に伝える物語が数多く存在しています。



人々が歩んだ道

平安時代には皇族や貴族を中心とした人々が熊野三山をめざして旅をした熊野古道ですが、鎌倉時代になると武士の巡礼も盛んになりました。その後、江戸時代には西国三十三所観音巡礼の経路としても使われ、多くの人々でにぎわいました。

参詣する人の多さを表す言葉としてよく耳にする「蟻の熊野詣」は、白装束を着て参詣する人々の行列が髪だけは黒く、蟻のように見えたからとも言われています。



未来へつなげていくために

自然遺産は保護の観点から人の手が加わることを避けますが、熊野古道は人々の生活と自然の営みが一体となり文化をつないできた観点から保全と活用の両方が求められています。

これらの遺産を後世に継承していく活動として、熊野古道を含めた地域の文化を知り、子どもたち自身が熊野古道について考える「熊野古道語り部ジュニア」や、企業・観光客等に呼びかけて古道の補修を行う道普請に取り組んでいます。



「紀伊山地の霊場と参詣道」が平成16年7月7日に世界遺産に登録されてから今年で20年を迎えます。

俗界から隔てられた熊野地方の荘厳な自然は、人々から畏れ敬われ、自然崇拜を生み出しました。それはやがて神道や仏教、修験道につながり、さらに神仏習合という独特の信仰へと発展させ、国宝や重要文化財、史跡や名勝を産み出しました。

長い時間をかけて、自然と人間の営みが一体となって形作られた風景は「文化的景観」として高く評価され、和歌山、奈良、三重の3県にまたがる広大な地域が世界文化遺産として日本で初めて登録されました。

今回の特集は、登録された中でも熊野古道にスポットを当て、多くの人が歩き継いできた魅力や歴史をご紹介します。

世界遺産熊野本宮館
☎0735(42)0751

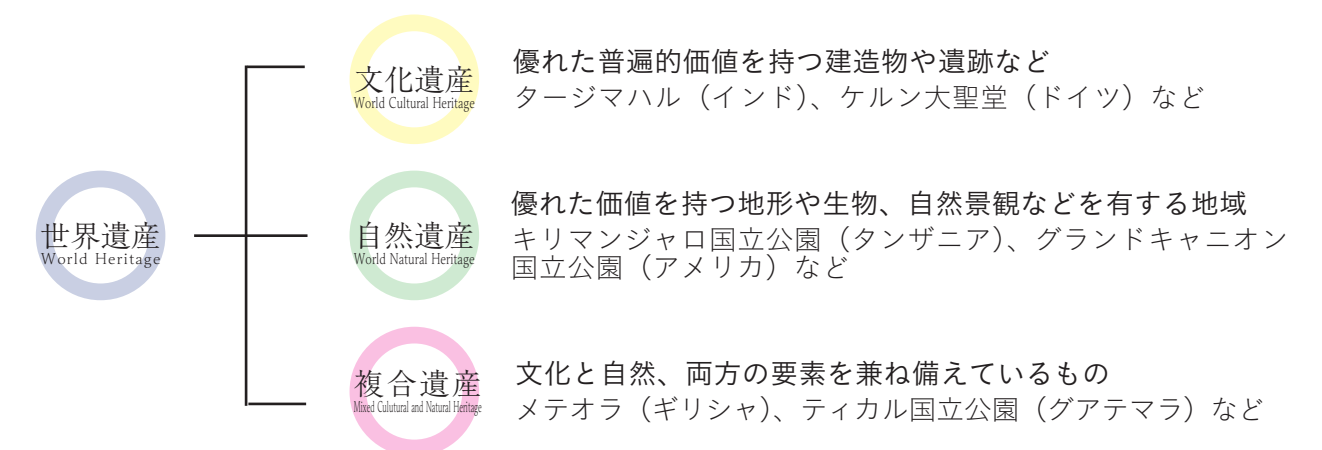
「世界遺産登録20周年」

特集 これからも続く祈りの道

世界遺産とは

世界遺産は豊かな自然や素晴らしい伝統文化を世界の人々が協力して保護し、次世代へと伝えていくべきかけがえのない宝物です。その国における評価だけでなく、世界的にも価値が認められて「人類共通の財産」として世界遺産に登録されます。

熊野古道は姫路城や厳島神社と同じ「文化遺産」として登録され、世界でも2つしか例のない「道」の世界遺産でもあります。



いにしえ 古の道をたどる

熊野古道が文化的景観として評価された魅力について、発心門王子から熊野本宮大社までの道中を語り部の会の松本茂子さんに「語って」いただきました。

始まるの場所で

しおごり 潮垢離

熊野詣の道中では、滝や川などの冷水での禊（みそぎ）である「垢離」をするのが習わしでした。特に紀伊路から中辺路へと入る田辺では、海水で垢離を行ったことから「潮垢離」といわれ、現在は扇ヶ浜海水浴場（しおごりば）に「潮垢離場」が設けられています。



冬には稲わらをかぶせた姿も見られる

どうきゅうぜんもん 道休禅門地藏

道休は道で休むこと、禅門は修行僧のことを表します。この地藏は、多くの人が熊野本宮大社までもう少しの場所で無念の死を遂げた、その慰霊として建立されました。参詣者は道中での旅の安全を願いながら手を合わせています。

その思いは代々引き継がれ、今では三里小学校の児童たちが供養しお世話しています。

三軒茶屋跡

中辺路と小辺路の合流地点で交通の要所でした。そこには高野（小辺路）、西国巡礼への道のりを示す石造りの道標が残されています。

今は竹藪になっていますが、3軒の茶屋が建てられ、多くの参詣者でにぎわったと言われています。



当時の茶屋を再現した休憩所がある

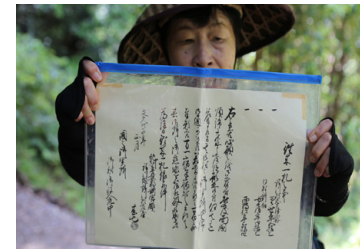
滝尻王子

富田川（いしぶり）と石船川の合流地点にあり、石船川から富田川に注がれる様子が、水が滝つぼに落ちる様であったことから、この名がついたとされています。かつては熊野の霊域の始まりとされ、熊野九十九王子の中でも、五体王子の一つに数えられる格式高い王子社でした。



くきがぐち 九鬼ヶ口関所と通行手形

当時は九鬼という集落の入口に関所があり、通るには、通行手形と10文（現在の約200円）の通行料が必要でした。お金がある人は、貧しい人の通行料を肩代わりすることで功德をいただけると信じられていたため、貴賤問わず参ることができました。



通行手形のレプリカ。当時のままに書かれている

歴史を絵地図に

描きこんで

熊野古道のガイドマップ製作や、大辺路刈り開き隊として、歴史に埋もれた熊野古道の調査や整備活動にも携わっている生駒さん。元々絵を描くことが好きで、調査、整備した道を絵で記録しようと思ったことが、熊野古道絵地図を描くきっかけとなったそうです。



生駒 和歌子さん
—中芳養—

作品へのこだわり

数年ほど前から、熊野古道の中でも小栗判官伝説が残る小栗街道の絵地図を描いています。小栗判官が湯の峰に向けて旅をする中で、様々な出来事を絵と解説を入れて描きこんでいます。

作品は水墨画で、使っている墨は市内産の紀州松煙墨、彩煙墨。また絵のベースとなる紙は龍神村から手すき和紙の山路紙を、絵を入れる額縁には市内の間伐材で



これから残り続ける

絵地図を描く中で、熊野古道にまつわる書籍を読むと、その景色や様子も時代によって変わっていったと感じられます。そうした変化を私としては個人的なメモのような、また趣味のような感覚で、この絵地図を描いています。

将来、この作品を見て、以前ここはこんなところだったのかななどと想像して、どこか懐かしさを感じてくれるとうれしいですね。

また、本宮へ向かえないなら、せめてもと熊野本宮大社に向かって伏して拝んだことから、この地域が伏拝といわれるゆえんとなったとも。



和泉式部が詠んだ和歌（右）とともに、式部の供養塔（左）が残されている



（背景）伏拝地域から望む景色

世界遺産登録 20 周年特別企画

今しか楽しめない特別企画を紹介します。イベントをきっかけに、改めて熊野古道の魅力を感じてみませんか？

他にもいろいろあるよ！▶



7/1～翌年2月末

デジタルスタンプラリー

知られざる熊野の魅力を楽しく体験しながら旅をして、スタンプを集めると豪華景品が当たるかも？

12/31まで

熊野本宮”にっこり”キャンペーン2

本宮での宿泊やお食事、お買い物をするペア宿泊券や熊野本宮の特産品が当たる応募券がもらえる！

7/6～9/16

2024 年夏季特別企画展
「熊野古道の神仏と南方熊楠」

10 ページで紹介しています。

10/5～11/24

世界遺産登録 20 周年記念特別展
～仙境 南面の聖地、ここにあり～

県立近代美術館と市立美術館が、共同で特別展を開催



共通巡礼手帳



「紀伊山地の霊場と参詣道（熊野古道）」と、スペインにあるおよそ 800km にも及ぶ「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路（サンティアゴ巡礼道）」は、世界に 2 例しかない「道の世界遺産」です。その道を有する田辺市とサンティアゴ・デ・コンポステーラ市は、10 年前に観光交流協定を結び、共同で両方の道の押印帳を一つにまとめた共通巡礼手帳を発行しています。

今年は世界遺産登録 20 周年を記念して、共通巡礼達成の登録証書を入れる「紙筒」をノベルティとしてプレゼント！

サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路

1000 年以上の歴史を持つ、サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂に続く巡礼道で、主にフランスからスペインに続く道を指します。

一人ひとりの思いが千年先へとつなぐ



世界遺産熊野本宮館
けんた 安井 健太館長

熊野古道は、千年以上も人々の生活とつながり、守り抜いてきた道。それが評価されて世界遺産に登録されました。登録当初は、今までの生活を損なうことなく、熊野古道を守り続けていくことを地元の方に理解してもらおうのは、とても大変でした。しかし、年月を重ねるにつれ、自分たちの子や孫に熊野古道を残していくことの大切さに気付いても、伝えるようになってきたと感じています。この先も熊野古道を守り続けていくため、地元の学校での授業を始め、道普請のボランティアや林業の体験などを通じて、道にまつわる歴史や先人たちの思いを伝えたいです。このような体験はもちろんのこと、一人ひとりがこの地域を少しでも大切に思う気持ちで、熊野古道を守ることにつながるのではと思っています。



熊野本宮語り部の会
しげこ 松本 茂子さんオススメ！

熊野の森に溶ける場所

発心門王子（本宮町）から歩いて、伏拝口の約 200m 手前に間伐材を利用して作った森のベッドがあります。

ベッドに横になると歩くだけでは見えない景色が。熊野の森との一体感をぜひ味わってください。小鳥のさえずりや木漏れ日が日頃の心と体を癒やしてくれますよ。

この木漏れ日が好き



熊野本宮語り部の会
しゅんいち 松本 純一 会長
オススメ！



ここぞしか咲かない花

熊野古道沿いでは四季を通して多種多様な花が咲きハイカーを楽しませてくれます。あまりに小さくて、見落としてしまいそうな花も、レンズを通してみるとその魅力に引き込まれます。時には、そこでしか見ることができない絶滅危惧種の花に出会うこともあり、熊野の自然の恵みに感謝しながらシャッターを切っています。

◀ コウヤシロカネソウ

温泉に通ずる道

赤木越（本宮町）がおすすめです。見晴らしが良いのに、歩く人が少なく一人でゆったり歩くことができます。ゴールには世界でも珍しい入浴できる世界遺産「つぼ湯」があります。ここで湯垢離をして身を清め、熊野本宮大社に参拝してみてもいいですよ。



世界遺産熊野本宮館
けんた 安井 健太館長オススメ！

熊野古道の魅力を再発見

熊野古道を愛する皆さんに、熊野古道の楽しみ方や、オススメスポットを教えてくださいました。ただ歩くだけではもったいない！



左から山中さん、横尾さん、鈴木さん
神島高等学校写真部オススメ！

知るほどに新鮮

写真部の活動で、語り部さんのお話を聞きながら歩きました。ただ歩くだけでは分からない様々な物語に、古道がとても新鮮に見え、オススメです。

どうやってこの素敵な光景を伝えようかと撮影するのは楽しかったです。特に木漏れ日や石畳の美しさが印象的でした。

! 熊野古道を守るため、動植物を捕獲・採取するのはやめましょう。